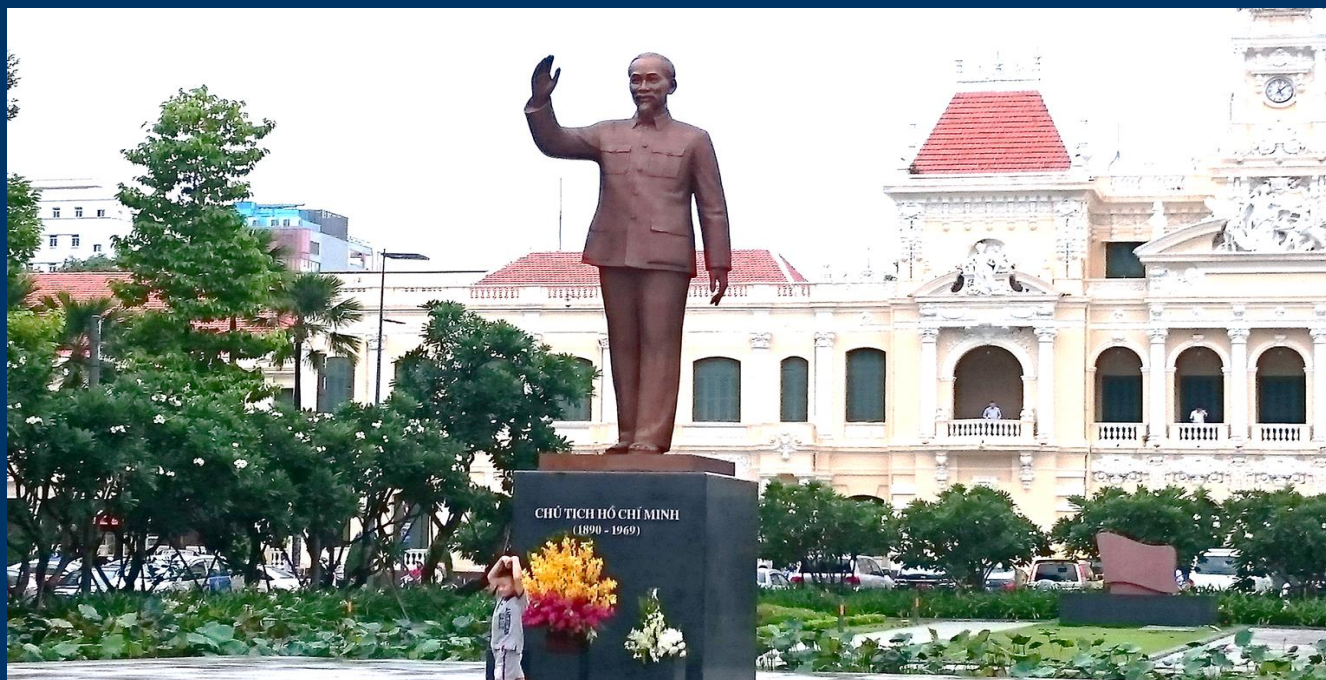


平成29年度 中小企業海外展開チャレンジ促進事業



有限会社 実松製作所

平成30年 3月 7日

実松製作所 報告次第

1. 会社概要
 2. 事業紹介（とりわけ畜産設備事業）
 3. 海外（ベトナム）展開の目的および理由
 4. 平成29年度 活動報告
 5. 来年度活動計画と課題
-
-

実松製作所 概要



【本社所在地】

佐賀県神埼市千代田町姉391番地1



【代表者】

代表取締役 実松 新一郎

【社史概略】

昭和32年（1957年）実松 利雄が神埼郡千代田村（現神埼市千代田町）で創業

昭和39年（1964年）法人化し、本社を佐賀市大財に移転

昭和60年（1985年）千代田第2工場・三加和試験農場 操業開始

平成 7年（1995年）実松 利雄が、特許庁長官賞 受賞

平成13年（2001年）本社工場を現在地に移転

平成18年（2006年）実松 新一郎が代表取締役社長に就任

会社を支える事業3本柱

① 畜産設備事業

→ ベトナムへ

② 溶接金網事業

③ 鉄工製缶事業



変遷する養鶏産業と役割

金網（ケージ）メーカーとしての出発と成功



ドブメッキ仕様

設置後30年経過も

錆びずに現役

- 農業畜産の担い手不足、顧客の企業化・合理化の進展
- 機械化・自動化されたシステムの要請
- 鶏舎全体の機器設備を構築する総合システムメーカーへ

直立型ケージシステムの開発



我々の強み

① 希少なワンストップメーカー

提案・設計・製造・販売・保全を一手に

② ケージの品質

20～30年、それ以上使ってもらえる品質

③ 対応力と柔軟性

長年の蓄積によるオーダーメイドでの対応力

我々の弱み

① コスト・規模対応力

海外競合メーカーの日本進出拡大
顧客の企業化・設備規模拡大

② システムの完成度

後発ゆえの未成熟

③ 縮小してゆく市場

人口減少社会 → 国内市場だけでは限界

海外進出事業の目的

① 競争力・生産能力UP

海外にケージの製造拠点（強みを持ち込む）
付帯設備・システムの購買網を確立

② 海外市場の販路開拓

人口増加・発展していく市場に活路を
→ 成長する市場を舞台に戦う力をつける
「ベトナム」進出し、工場設立を計画

なぜベトナム



- ① 経済発展・将来性（若さ）
- ② 政治的に安定
- ③ 仏教国・気質（日本類似？）
- ④ たまご食文化も養鶏産業は未成熟
- ⑤ 既存のローカルパートナー
- ⑥ インフラの整備、レンタル工場



これまでの活動（～平成28年度）

- ① 市場調査/展示会（現地コンサル・進出企業）
 - ② 進出候補地の視察（ホーチミン近郊）
 - ③ 購買先（材料・外注）調査、訪問
 - ④ 資材・製品の開発、購入、輸入
 - ⑤ 技能実習生の採用（入社は29年度）
-
-

平成29年度活動報告（１）

- ① H29/6/25～29 ベトナム（ホーチミン→ハノイ）
購買先商談・輸入打合せが主
 - ② H29/9/12～15 ベトナム（ハノイ→ホーチミン）
購買先商談・打合せが主、
展示会訪問@ハノイ
 - ③ H29/10/16～19 中国（天津）
材料メーカー、設備メーカー視察・商談
 - ④ H29/12/19～22 ベトナム（ホーチミン）
レンタル工場交渉、購買先・現地コンサル訪問
（※ 佐賀県庁 小林主査、貿易協会 藤井事務局長 同行）
-
-

平成29年度活動報告（2）

- ⑤ H30/1/31 レンタル工場入居申込
 - ⑥ H30/2/1 コンサルタントに現地協力会社調査委託
 - ⑦ H30/2/4～8 台湾（高雄・台北）視察ミッション参加。
台湾系ベトナム企業の紹介を取付。
 - ⑧ H30/3/20～25 ベトナム（ホーチミン→ハノイ）
（予定）入居手続、スタッフ面談、現地営業
-
-

平成29年度の活動成果まとめ

- ① 工場設備購入、レンタル工場開設のめど
 - ② 従来からの協力企業との取引深化
 - ③ 新規協力企業との取引開始
 - ④ 華僑ネットワークへの接触
 - ⑤ 養鶏関連の客先開拓を開始
-
-

平成30年度の活動計画と課題

① 現地工場・法人の立ち上げ準備（来年度中の操業開始）

【課題】 行政手続、専門家（会計・法務など）確保
現地スタッフの確保、日本人スタッフの派遣

→ 現地コンサル、レンタル工場の支援
居住環境の整備

② さらに購買ネットワーク構築 ホーチミン近郊で完結できるシステム製造体制を！

【課題】 マッチング・交渉難航、現地企業の実力・接点
| T 関連の提携先検索を強化

→ 現地コンサル、既存取引先の支援

以上、ご清聴ありがとうございました

有限会社実松製作所

代表取締役 実松 新一郎

常務取締役 実松 孝一郎

来年度も、本事業を十二分に活用していく所存です！

なにとぞ、よろしくお願いします。
